

第2回仙台市音楽ホール検討懇話会

次第2-(3) 施設像の考え方について

資料4、資料5

2-(3) 施設像の考え方について

- | | |
|---------------------|-------|
| 1. 施設像の考え方 (たたき台) | ⇒ 資料4 |
| 2. 施設構成と主要施設 (たたき台) | ⇒ 資料5 |

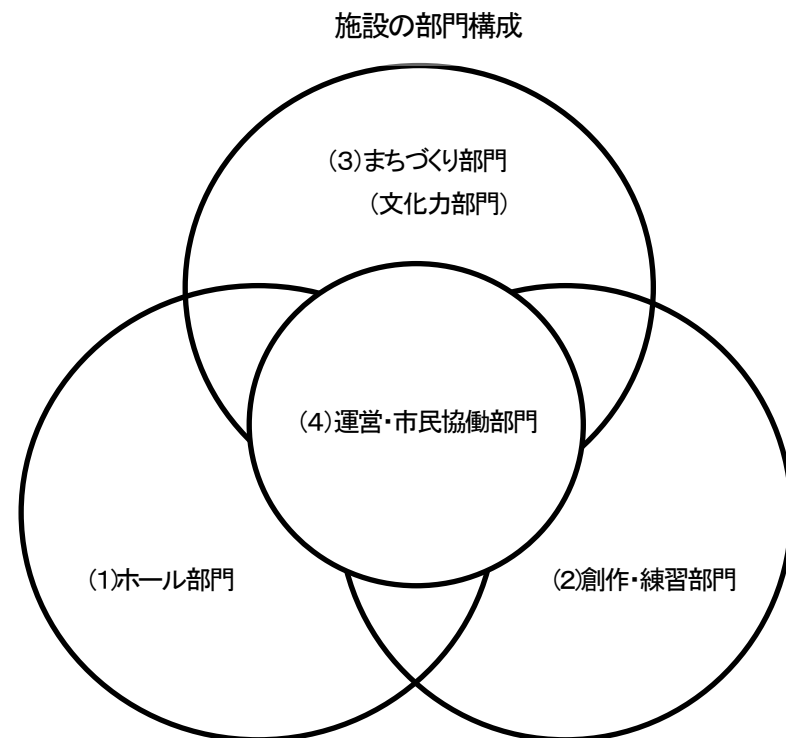
1. 施設像の考え方（たたき台）

(1) 部門構成

- 3つの設置目的、6つの機能構成を前提とすると、以下の4つの部門が想定される。
- 各部門は独立するのではなく、一体的、連携するものとして整備される。例えば、吹奏楽や合唱などの全国大会の開催を想定すれば、すべての施設を使って円滑な運営を図られるように施設配置や動線などが計画されていくことになる。また、文化力の発揮機能は、ホール部門、創作・練習部門、まちづくり（文化力）部門の様々な施設を使って行われることになる。

4つの部門構成

部門	概要
(1) ホール部門	公演、鑑賞、発表の場となるホール、舞台、楽屋や搬出入口などバックヤードや客席、ホワイエ、トイレなどフロントヤードの施設群を含む
(2) 創作・練習部門	ホール部門と連携したリハーサル室、練習室、稽古場、製作場など、公演や発表につながる創造・創作のプロセスを支える施設群
(3) まちづくり部門 (文化力部門)	まちと施設をつなぎ、まちに開かれ、まちを取込む施設群 他の回遊拠点と連携し、多様な人が気軽に立寄り、集い、憩うことができる施設群 誰もが自由に観覧、聴取できるイベントが行われるオープンステージなどの施設群 広域からの来館者、外国人などが情報を得たり、まちの魅力を体感できる施設群 文化芸術を介したまちづくりに係る活動、人材育成、学習機会等を企画提供する施設群
(4) 運営・ 市民協働部門	施設の管理運営を担うとともに、震災復興の過程で発揮された文化芸術の力を発揮した活動、新たな総合的文化芸術政策に基づく事業などの企画・展開を図る部門、多様な機関、団体、市民との協働を進める部門

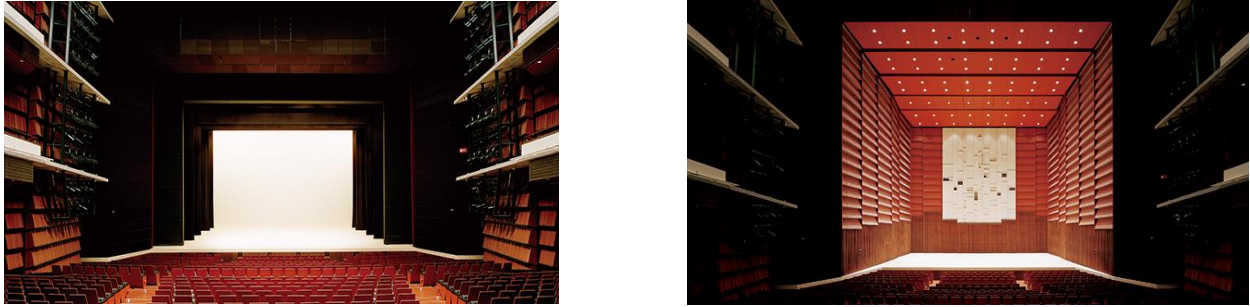
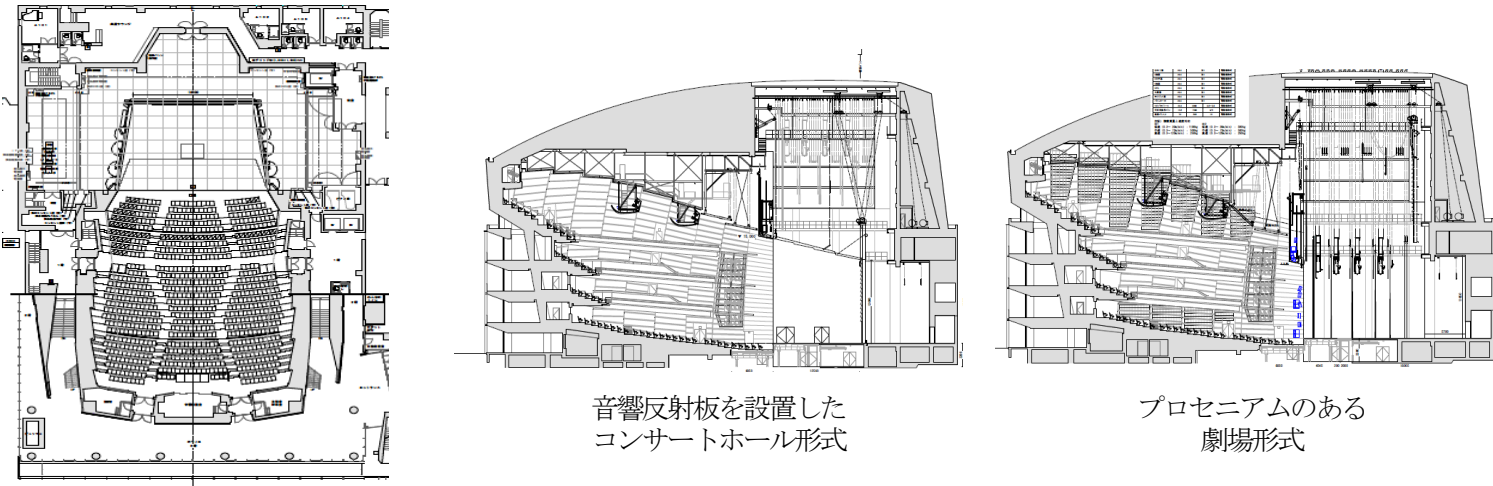


(2) 部門ごとの主要施設

部門	主要施設概要
(1)ホール部門	<ul style="list-style-type: none"> ■仙台市のホール施設現状を踏まえ、将来に向けた音楽・舞台芸術等の実演芸術振興のあり方に鑑み、主ホールとして2,000席級の音響重視の高機能多機能ホールを整備する。 ■市民の活発な実演芸術活動を支援していくとともに、創造的な実演芸術活動を促進していく場として、300～500席程度の多機能小ホールを整備する。 ■いずれのホールもバックヤード、観客用施設などを最新の知見に応じて適切に計画する。
	主ホール（音響重視の高機能多機能ホール、2,000席程度） オーケストラピット、搬出入荷解場、楽屋各種（音出し練習可能な楽屋整備） アーティストラウンジ、ホワイエ、適切な数のトイレなど 小ホール（多様な表現活動に対応できる多機能ホール、300～500席程度） 舞台形式なども可変でき、多様な活動に対応できる使いやすい多機能ホール
(2)創作・練習部門	<ul style="list-style-type: none"> ■ホール部門の主ホール、小ホールのあり方に対応し、創造・創作活動を一連のものとして支える諸施設群を整備する。
	音楽リハーサル室（オーケストラ対応、メインホール音響反射板設置時舞台相当） 演劇・バレエ等リハーサル室（メインホールアクティングエリア相当） 稽古場・練習室・スタジオ（大中小、クラシック・電気音響・舞台芸術対応各種） 製作工房（大道具・木工、美術、衣装など）、制作室、録音スタジオ、倉庫など
(3)まちづくり部門 (文化力部門)	<ul style="list-style-type: none"> ■施設の立地周辺エリア、地域、都市全体に及び多層的に、文化芸術を介したまちづくりを推進する仕組み、仕掛けを持つ諸施設を整備する。まちとの連携を重視し、従来の公共ホールの例によらず、サービス施設、ホスピタリティ施設などの充実などを図る。
	エントランス・交流広場（仮設イベントステージ、映像ビジョン、展示スペース、情報スペース、休憩場所など、多様な人々が施設開館時間中であれば、自由に訪れるこのできる施設群）、ショップ、オープンカフェ・アートカフェなど 屋上緑化による憩いの広場、イベント広場など ワークショップルーム、工房、講座室、体験アトリエなど （立地によっては野外ステージ、パフォーマンス広場、縁日広場など）
(4)運営・ 市民協働部門	<ul style="list-style-type: none"> ■施設の管理運営だけでなく、新たな総合的文化芸術政策を展開するための諸施設、特に様々な主体との協働の取組みを進めていくために必要な施設を整備する。
	管理運営事務関係諸室、会議室、託児室、防災センター、防災備蓄倉庫など 文化力推進企画制作諸室、協働事務室、研修室など
その他	設備機械室、廊下・階段・エレベータ等共通動線など

2. 施設構成と主要施設 (たたき台)

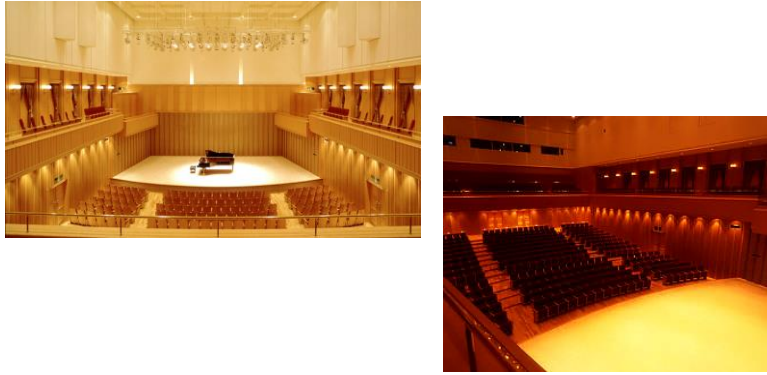
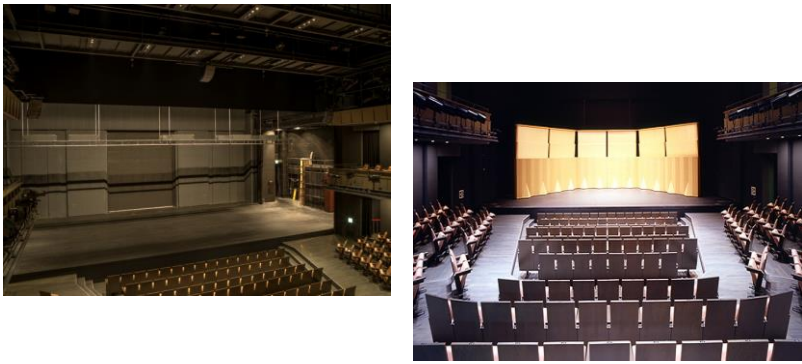
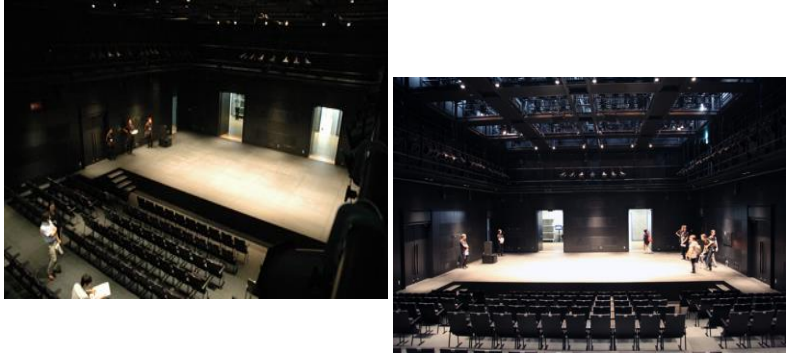
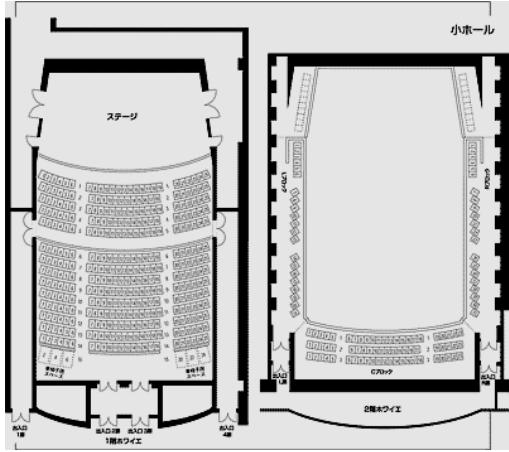
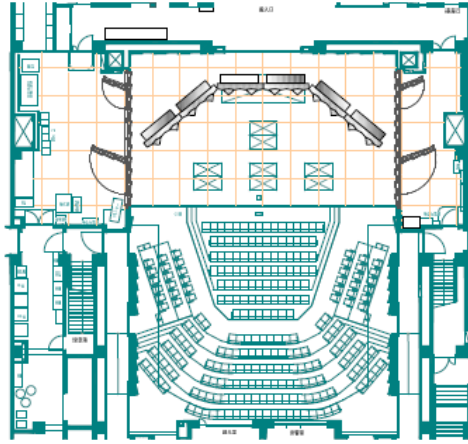
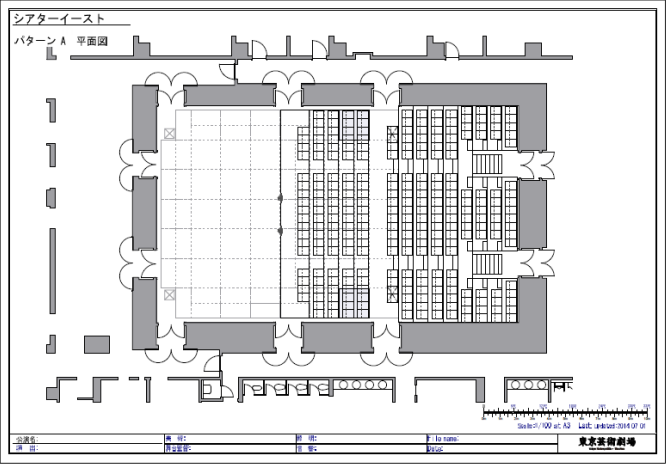
(1) ホール部門 主ホール 案：音響を重視した高機能の多機能ホール 2,000席程度

音楽ホール類型		音響を重視した高機能な多機能ホール
特性		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生の音源の響きを活かす音楽専用ホールと、多彩な演出が可能で言葉が明瞭に聞こえる劇場との特性を最大限実現するように計画されたホール。 ○ 従来の多目的ホールとは異なり、今日のホール建築技術や音響設計技術の向上、また音響反射板の性能の向上などによって、それぞれの用途に適したホールとすることが可能となっている。 ○ 多機能ホールには、劇場であることを重視したホールと音響を重視したホールが存在するが、このホールは、後者のコンサートホール状態の時の最適性を優先したホールである。
適するジャンル		○ クラシック、ポップス、ジャズ、邦楽、民族音楽など多様な音楽、演劇、オペラ、バレエ、舞踊、ミュージカル、ショーなど様々な舞台芸術が利用できる。
事例	内観写真	<p>いわき芸術文化交流館 (いわきアリオス) 大ホール</p> 
	平面図 断面図	 <p>音響反射板を設置したコンサートホール形式</p> <p>プロセニウムのある劇場形式</p>
備考		<p>座席数 1,705席 (オーケストラピット使用時：1,516席)</p> <p>残響時間 空席時2.1秒、満席時1.9秒</p> <p>吸音幕設置時 空席時1.3秒、満席時1.2秒</p>

参考 音楽専用ホール
<ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストラなど生の音源の響きを重視し、そのような活動の場に特化して作られるホール。ホール自体が楽器と言われるように、響き、静寂性、遮音性などに高い性能を要求される。舞台と客席が一体的、一つの空間にある。吊ものなど舞台設備は少ない。緞帳はない。 ○ ホール自体が響く構造にあるために、音楽でも電気音響を使うもの、太鼓など音圧の強いものは適さない。また、セリフを重視し、舞台設備を必要とする演出のある演劇など舞台芸術は不適である。会議なども人の声が明瞭には聞き取れないので不適である。
<ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストラ音楽、合唱など、残響2秒と言われるように、いわゆるクラシック音楽など生の音源で響きを重視する音楽。
<p>札幌コンサートホール (Kitara) 大ホール</p> 

<p>座席数 2,008席</p> <p>残響時間 空席時 約2.2秒、満席時 約2.0秒</p>

(2) ホール部門 小ホール 案：多様な表現活動に対応できる多機能ホール、300～500席程度

音楽ホール類型	音楽専用ホール 小ホール	多様な表現活動に対応できる多機能小ホール	演劇・舞踊小ホール
特性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 室内楽やクラシック音楽のリサイタルなど生の音源の響きを重視し、そのような活動の場に特化して作られるホール。響き、静寂性、遮音性などに高い性能を要求される。舞台と客席が一体的、一つの空間にある。吊ものなど舞台設備は極めて少ない。 ○ ホール自体が響く構造にあるために、音楽でも電気音響を使うもの、太鼓など音圧の強いものは適さない。また、セリフを重視し、舞台設備を必要とする演出のある演劇など舞台芸術は不適である。会議なども人の声が明瞭には聞き取れないので不適である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生の音源の響きを活かす音楽専用ホールと、多彩な演出が可能で言葉が明瞭に聞こえる劇場との特性を最大限実現するように計画されたホール。 ○ 従来の多目的ホールとは異なり、今日のホール建築技術や音響設計技術の向上、また音響反射板の性能の向上などによって、それぞれの用途に適したホールとすることが可能となっている。 ○ 多機能ホールには、劇場であることを重視したホールと音響を重視したホールが存在するが、このホールは、後者のコンサートホール状態の時の最適性を優先したホールである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模な演劇や舞踊に適するホール。客席と舞台の一体感があり、演じての表情や細かな所作までしっかりと視認することができる。 ○ 演出のための舞台設備は充実し、舞台と客席の関係も可変的なものができる。ホール全体としても暗転の時は暗くなるように内装なども暗いトーンになる。 ○ セリフを重視するために、ホール内の響きは無く、音楽専用ホールのような生の音源での音楽は不適である。電氣的増幅が必要であり、音響システムが導入される。
適するジャンル	<ul style="list-style-type: none"> ○ 室内楽、弦楽器やピアノ、声楽などのリサイタル、いわゆるクラシック音楽など生の音源で響きを重視する音楽。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小編成のクラシック、ポップス、ジャズ、邦楽、民族音楽など多様な音楽、演劇、バレエ、舞踊、ショーなど様々な舞台芸術が利用できる。 ○ 斬新な発想による多様な利用、演出などを可能にする。 ○ 映像とのコラボレーションなども可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演劇、舞踊、パフォーマンスなど。 ○ 斬新な発想による多様な利用、演出などを可能にする。 ○ 映像とのコラボレーションなども可能である。
事例	<p>札幌コンサートホール(Kitara)小ホール</p> 	<p>可児市創造文化センター(アーク)虹のホール</p> 	<p>東京芸術劇場 シアターイースト</p> 
	<p>平面図</p> 	 <p>図は音響反射板を設置した場合</p>	
備考	<p>座席数 453席 残響時間 空席時1.7秒 満席時1.6秒</p>	<p>座席数 211～311席 音響反射板の設置により音楽対応(残響時間不明) 可動座席により、多様な舞台形式が可能</p>	<p>座席数 272～324席 残響時間 満席時 0.78秒 舞台は多様な形に組み替えることができる</p>

(3) 創作・練習部門

■主要施設のイメージ

諸室名	概要	事例
①音楽リハーサル室	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4管編成のオーケストラが演奏可能な広さで、天井の高さも確保し、主ホールをコンサートホール形式にした場合の音響条件に極めて近づけたリハーサル室とする。 ○ オーケストラ等器楽演奏、合唱などの公演リハーサル、練習活動の場と想定する。 ○ ワークショップや体験的な講座、幼児や乳児などを対象とした小規模な公演などにも対応できるようにする。 ○ 大型の全国大会の開催時には、出演前の音だし、声だし施設などとも想定する。 	  <p>広島市アステールプラザ オーケストラ練習室(363㎡)</p>
②舞台芸術リハーサル室	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主ホールのアクティビティエリアと同じ広さを確保し、床、バトンなども、主ホールの舞台、舞台設備にできるだけ近づける。一辺の壁には一面に鏡を配する。天井高さも十分に確保する。 ○ 主ホールでの公演のリハーサル、通し稽古などに適したリハーサル室とする。 ○ オペラ、バレエ、演劇、舞踊などの公演リハーサル及び、練習活動の場とする。 ○ ワークショップや体験的な講座、幼児や乳児などを対象とした小規模な公演などにも対応できるようにする。 ○ 大型の全国大会などの開催時には、出待ちの控室や楽器ケース等の置場など、運営上の主要施設として機能させることを想定する。 	 <p>兵庫県立芸術文化センター リハーサル室1(331㎡)</p>  <p>滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール リハーサル室(330㎡)</p>

諸室名	概要	事例
③練習室・稽古場	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽（クラシック、ポップス等）、演劇、舞踊などそれぞれの活動に適した、練習・稽古の場を整備する。大、中、小など規模の異なる室を複数整備する。録音編集室も計画する。 ○ 自主制作事業などを想定した利用、ホール等での公演や発表を目指した練習・稽古利用だけではなく、日常的な活動での利用をも想定する。 	   <p>いわき市芸術文化交流館 練習室・稽古場</p>
④製作場・工房	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主企画制作事業の実施や市民の創造・創作活動のために、また、それらに裾野の広い市民の参画を進めるために、大道具や小道具、衣装などの製作、加工をする場を設ける。 ○ 学校での演劇部活動などと連携して、専門的な技術指導や体験・育成事業を行う場としても活用が想定される。 	 <p>大道具室</p>  <p>木工室</p> <p>大道具室は世田谷パブリックシアター 木工室は可児市創造文化センター、</p>

(4) まちづくり部門 (文化力部門)

■主要施設のイメージ

諸室名	参考事例
①まちに開かれた広場	 <p>せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア</p>  <p>兵庫県立芸術文化センター ピアッツァ(広場)</p>
	 <p>東京芸術劇場アトリウム</p>  <p>水戸市新市民会館 やぐら広場(設計中)</p>
	 
	<p>まつもと市民芸術館 シアターパーク (メインロビー・様々なイベント広場になる、右歌舞伎四谷怪談公演時の「おひげ横丁」開催)</p>
	 <p>可児市創造文化センター・カフェ (1階にオープンカフェがある)</p>  <p>ミュージアム川崎シンフォニーホール 音楽文化・企画展示室</p>
	 <p>新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)カフェ</p>

諸室名	参考事例
②まちの新たな魅力	  <p>まつもと市民芸術館 トップガーデン (開館時間中は自由に出入りができる。イベントも開催される。)</p>
	 <p>アクロス福岡 手前の公園と連続し、建物を緑で覆う</p>  <p>新潟市民芸術館(りゅーとぴあ) 手前は信濃川、屋上緑化と緑と広場を配置</p>
	  <p>ニューワールドセンター・ウォールスクリーンによる野外ライブビューイング ホール及び施設は最新の映像と通信技術が駆使される。ホール内でも映像が駆使される。</p>
	<p>※ニューワールドセンター (米国フロリダ州マイアミビーチ市) ○ マイケル・ティルソン・トーマスが監督を務める若い音楽家の育成を図るニューワールド管弦楽団のキャンパス (本拠地)。施設の設計はフランク・ゲーリー、音響は永田音響、まちを活性化し、観光地として一新した施設として有名。 ○ 2,100㎡の巨大ウォールスクリーンにホールの公演を実況で流したり、オリジナルの映像・パフォーマンス作品などを投影する。1,000人を収容する野外音楽堂となっている。野外であるが、160台以上の高性能スピーカーと音響調整システムを導入し、良好な聴取環境を形成している。</p>